

勝利の笑顔がやりがい

「そうっ、ナイス！」グラウンドに大きな声が響き渡る。声の主はサッカークラブUKI・C・FC U15の総監督を務める齊藤隆二さんだ。

このクラブはこれまで、OBから3人のプロを輩出し、去年は新たに2人のJリーガーが誕生している名門。齊藤さんは25年間、本業のレンコン農家を営みながらサッカーの指導者続けている。

自身も社会人までプレイヤーだった齊藤さん。息子の保育園でキッズサッカーチームを立ち上げたときに指導者人生が始まった。「子どもたちにサッカーを教えるときに心掛けているの

は、どんな時も全力で生徒に接すること。生徒の成長を目の当たりにしたときや勝って喜ぶ生徒の笑顔を見たときにやりがいを感じるし、何よりのご褒美ですね。」と語る。

農家と指導者の両立

レンコン農家とサッカー指導者との両立は決して楽ではない。今はコーチに任せているが、トップチームの監督時代は、土日の試合を最優先に一週間の仕事の予定を組み、家族を巻き込んでサッカー中心の生活を送った。時には試合のために月曜日から金曜日までレンコンを掘りためて、出荷準備は父と母に無理矢理お願いすることも。好き

でやっているとはいえ、農作業後、21時までの指導は体力的にもきつい。しかし、サッカーがうまくならない、試合に勝ちたいと願う子どもたちのために極力練習に足を運んだ。

子どもたちに伝えたいこと

「私が指導者として続けてこられたのは、先代の指導者たちからチームと子どもたちを託されたから。その思いをつなぐため、今でも頑張ることができています。現在、宇城市には仕事をしながらボランティアで指導者として頑張っている人たちもたくさんいます。指導者という聞きこえはいいかもしれませんが、見た目以上に苦労があるこ

とを少しでも理解していただけたら幸いです。」と笑って話す。

「子どもたちには、フェアプレーの精神を持ち、大人になっても誰かのために汗を流せる人になってほしい。サッカーを通して人間性を学び、一人でも長くプレーを続けて活躍してもらえたら。」と齊藤さん。

そんな熱意は選手たちにも伝わっている。小川中3年のキャプテン吉村成起さんは「アドバ

1 齊藤総監督を支える4人のコーチたち 2 OBには現役プロの谷山湧人さん(左)、宮本優さん(中)、中村健人さん(右)も 3 子どもたちの指導にも熱が入る 4 毎年恒例のOB戦 5 息子の蔵人さん(右)と一緒にレンコンを収穫 6 榊齊藤さん家の自慢の栄養豊富なレンコン 7 加工した「乾燥れんこん」と「れんこんパウダー」はふるさと納税の返礼品にもなっている



10年後の自分に誇れるよう

「今後は、本業の農業で「齊藤さん家のレンコンが一番おいしい。」と言ってもらえるように。」

また、6次産業化を進め、さらなる商品化を目指していきたい。指導者としては、若い指導者を見守り、何かあればチームを守る存在になること。徐々に次世代にバトンタッチできればと思います。どちらもおろそかにしてはいけないので、10年後の自分にも誇れるように、これからも全力で駆け抜けていきたいです。」

そう語る齊藤さんの目は次への意欲に満ちあふれている。



UKI-C.FC U15のInstagram



榊齊藤さん家のHP

齊藤 隆二 Saito Ryuji

1965年松橋町生まれ。「榊齊藤さん家」でレンコン農家を営む傍ら、熊本県1部リーグに所属し、全国大会出場の実績もある名門サッカーチームUKI-C.FC U15の総監督を務める。